

三重大学における学生の農村災害ボランティアに対する意識調査
 Consciousness research of Mie university students on disaster volunteer activities
 for supporting rural areas

○鈴木 唯*, 西脇 祥子*, 岡島 賢治*, 伊藤 良栄*, 成岡 市*
 Yui Suzuki*, Shoko Nishiwaki*, Kenji Okajima*, Ryoei Ito* and Hajime Narioka*

1. はじめに

近年全国各地で、台風、集中豪雨、地震等により農業用施設等が被災している。三重県においても例外でなく、東海、東南海、南海地震の発生も懸念されている。農業生産者にとってはいち早い復旧が、安定した農業生産、農業経営を取り戻すことに直結する。このため、平成18年度に災害復旧作業の速やかなる実施を農村災害ボランティアの善意により支援する「三重県農村災害ボランティア団体」が設置された。この団体は、三重大学大学院生物資源学研究所（共生環境学専攻地域保全工学講座）、三重県農林水産部農業基盤整備課、三重県土地改良事業団体連合会および登録した農村災害ボランティア（隊員）で構成している。三重県の農村において災害発生時に農村災害ボランティア派遣申請があった場合に、農村災害ボランティア（隊員）を派遣し、災害査定事前準備作業を支援することを目的としている。

三重大学では、秋から冬にかけて測量学・測量学実習を修了した2年次生を対象に、農村災害ボランティアの説明会を行い、農村災害ボランティア登録を募っている。登録した学生に対して、災害の有無によらず、年に1度研修を行い技術の継承を図っている。

平成26年度南伊勢町・志摩市より、平成27年度松阪市より出動要請があり、学生の農村災害ボランティアが出動した。表1に出動実績を示す。平成26年11月の出動では、災害査定用の写真撮影の補助作業を実施した。また、平成27年9月の出動では、ポール横断測量と平板測量を実施した。

このような農村災害ボランティアへの参加は、農業農村工学分野での就職を検討している学生の業務への意識を高める効果があると考えられる。そこで本研究では、学生の農村災害ボランティアへの登録者・未登録者間の意識の違いに関する意識調査を行った。

2. 研究手法

農村災害ボランティアに関するアンケート調査を行った。2012～2016年度の農村災害ボランティア登録者を含む、三重大学生物資源学部共生環境学科地域保全工学講座（農業農村工学関連分野）の学生59人を対象とした。今回アンケートをとった59人のうち、26人が農村災害ボランティアに登録をしており（図1）。そのうち、年代別では20～24歳代58人、25～29歳代1人、また、男

表1 出動実績

日付	場所	人数	天候
2014/11/21	南伊勢町切原, 志摩市磯部町五知	4	晴れ
2015/9/24	松阪市	5	晴れ
2015/9/25	松阪市	4	雨
2015/9/28	松阪市	6	晴れ
2015/9/30	松阪市	6	曇り

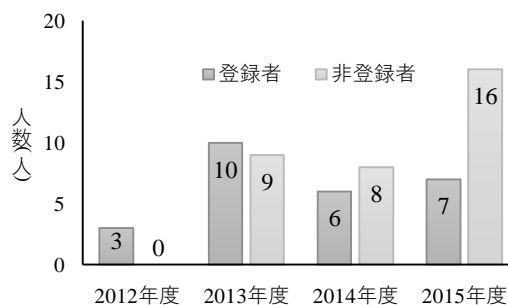


図1 回答者における学年ごとの登録者数

*: 三重大学, Mie University キーワード: 測量・GIS, 農村災害ボランティア, 意識調査

性 37 人，女性 22 人であった。

3. 結果の分析

出動した人(登録・出動)，登録したが出動しなかった人(登録未・出動)，未登録で出動もしなかった人(未登録・未出動)の 3 グループに分けて分析を行った。年度別の登録・出動の割合は 2012 年度登録者で 0%，2013 年度登録者で 100%，2014 年度登録者で 83%，2015 年度登録者で 0%であった。なお，2015 年度登録者については 2015 年 9 月以降に登録したため，今回の出動の要請は受けていない。質問に対し，ポジティブな回答を 5 点とし，とても思う(5 点)，思う(4 点)，場合による(3 点)，あまり思わない(2 点)，思わない(1 点)の 5 段階で回答してもらい，平均点数より傾向分析と評価を行なった。

設問 A として「農村災害ボランティアが今後も継続的に続けることができれば棚田地域の『継続的な保全』に寄与すると思いますか」という質問に対して登録・出動が 4 点と最もポジティブな回答であった。登録・未出動は 3.86 点，未登録・未出動は 3.65 点となり，図 2 に示した。3 グループともポジティブな傾向を示しており，農業農村工学関連分野を専攻する学生は農村災害ボランティアの有効性や活動意義を理解していると考えられる。また，設問 B として「次に農村災害ボランティアの出動の機会があれば参加したいか」という質問に対しては，登録・出動は 3.8 点，登録・未出動は 4.43 点とポジティブな回答であったが，未登録・未出動は 2.78 点と低い結果となった。これは，表 2 より，各グループを構成する年度別登録者の分布が関係していると考えられる。登録・出動に対し，設問 C として「出動前後で農村災害ボランティアに対する意識が変わったか」では図 3 のような結果となった。登録・出動ではネガティブな回答はなく，農村災害ボランティアに実際に参加することによって，農村災害ボランティアに対する意識がよりポジティブになったといえる。

4. まとめ

今回，農村災害ボランティアの登録者・未登録者間の意識の違いに関する意識調査を行った。結果として，農業農村工学関連分野を専攻する学生は全体的に農村災害ボランティアの活動を意義のあるものにとらえ，特に農村災害ボランティアの登録者はより意義のあるものにとらえていた。専門知識を持った学生の特殊なボランティアである三重県農村災害ボランティアは成功例ととらえることができる。県内外でより普及が進むために今後の課題として，成功した要因・改善点の検討などを行いたい。

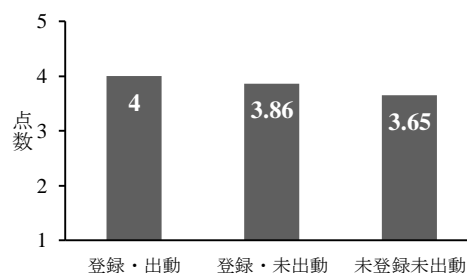


図 2 設問 A に対する回答

表 2 各グループの年度別登録者の構成

	登録・出動	登録・未出動	未登録未出動
2012 年度登録者	0	3	0
2013 年度登録者	12	0	7
2014 年度登録者	8	1	5
2015 年度登録者	0	7	16
合計	20	11	28

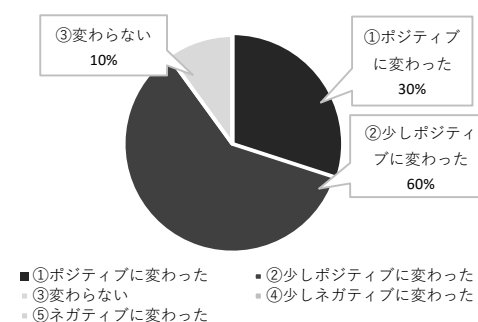


図 3 設問 C に対する答え